

都市再生整備計画事後評価（原案）パブリックコメント実施結果

皆さまからいただきましたご意見の内容とそれに対する町の考え方を公表します。

(1) 意見の提出者数 7人（連名による提出者7人） ※ 提出方法：持参7人、郵送0人、メール0人

(2) 意見の項目数 3件

項目	意見内容	町の考え方
「目標値」の設定について	①「都市再生整備計画の目標値が達成されたか、どのような課題が解決され、又は残ったか、今後のまちづくりをどのように行うか」という目的に沿うためには現在設定されている「目標値」は全く何の意味もないものとなっているように思います。	①事後評価は都市再生整備計画の目標値の達成状況及び定性的な効果の発現状況によって行っています。目標値は国土交通省の事業認可の際に設定していますので、評価時点で変更することはできません。 しかし、評価においては今後のまちづくりの方策の検討も併せて行いますので、ご提案の目標値の設定は本事業終了後の新たな目標設定を行う場合の参考とさせていただきます。

	<p>②高山コミュニティセンターの活用・利用等の目標値について</p> <ul style="list-style-type: none">・年間利用件数、年間利用者数、年間運営・管理費の設定・コミュニティセンターは公民館とは異なり、「都市住民と農村の交流促進」を主目的としているため、公民館以上の成果・効果を上げなければならない（吉川公民館は財政再建として廃止の方針が出されている）・施設を整備すれば人が集まるというのではなく、効果があるものとするためには格別の努力が必要で、常日頃から目標達成に向けての改革・改善が欠かせない <p>③高山コミュニティセンターの利用者アンケートの実施</p> <ul style="list-style-type: none">・施設の利用、設備、農村との交流、周辺の観光施設等に関して要望・希望等	<p>②③④「都市住民と農村の交流促進」を目的とする高山コミュニティセンターは、地区住民の主導による活性化を目指すべく、「高山コミュニティセンター運営検討委員会」により地域全体の資源活用の検討、企画を行っています。</p> <p>コミュニティセンターとそれを活用した地区全体の活性化の手段として、コミュニティセンターの目標値や真菜まつり等のイベントにおける売り上げ量等の目標値を定め、成果を検証することで、よりよい「都市住民と農村の交流促進」を行うことが期待できます。</p> <p>同じく、利用者のアンケートも利用者のニーズをとらえ、サービスの改善や今後の活用方針を検討に効果的です。</p> <p>ご提案いただいた目標値や手法は、今後の運営の際に参考とさせていただきます。</p>
--	---	--

	<ul style="list-style-type: none">・アンケートにより、事業目的に対してどのような成果が期待されているか、最も効率的、効果的な対策は何かを抽出する糧となる <p>④「真菜まつり」等イベントの目標値</p> <ul style="list-style-type: none">・有料参加者数、特産品の売り上げ量を算定・イベントは有料であるため、有料参加者を基準として評価・特産品として参加者何を求めたか、今後の特産品として何が有効かを評価できるものとする必要がある。	
--	--	--

	<p>⑤「狭隘道路率」「消防水利充足率」は目標から削除する。</p> <ul style="list-style-type: none">・「防災性・安全性の向上により快適に暮らせる街づくり」という目標の論理的根拠になりえない・目標値に達しなかった地域住民にとっては、防災性・安全性の確保を否定することになる・防災性・安全性は様々な要因（自然災害や人災）があるため、目標値として役に立たない	<p>⑤本事業は基幹事業として町道の拡幅整備と有効消火栓改良事業を行うものであり、①でお示しました通り、目標値は事業認可を受ける際に設定したものであることから、削除はできません。</p> <p>ご指摘にあるように、地域の防災性・安全性の向上は、地域住民の安全意識の向上やコミュニティの活性化を含め様々な面での取り組みが必要と考えられますが、今回の事業の中で具体的に効果を計測する一つの指標として設定しています。</p> <p>狭隘道の拡幅整備により、各住戸への消防車・救急車などの寄りつきが可能になります。また、有効消火栓の整備は火災時に非常に効果のあるものです。消防水利充足率は70%にとどまりますが、これは配水地の容量から、同時使用は2カ所までに制限されるためであり、今回の整備によりほぼ全世帯が有効範囲内（半径140m）に収まります。</p> <p>このように「防災性・安全性の向上により快適に暮らせる街づくり」という事業の目標を達成する指標として、客観的にみた定量的な指標としての「狭隘道路率」「消防水利充足率」の設定は妥当であると考えています。</p>
--	---	---

		<p>本事業においては、限られた事業費の中で最大の効果を発揮するよう計画しました。狭隘道路に面する住戸も残されていますが、拡幅された道路までの到達距離は短縮されており、具体的な数値としてはお示しできませんが、防災性・安全性は一定向上していると考えます。</p>
<p>観光事業に係る管理目標について</p>	<p>①高山地区は「豊能町総合計画」「豊能町都市計画マスタープラン」において観光レクリエーションの拠点・ルート整備充実に努める地域とされ、「頑張る地方応援プログラム」においても観光客の観光ルート確保が謳われているが、観光事業に係る管理目標がない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客に対するアンケートの実施 <p>(観光案内マップや案内板、観光ボランティアの説明等の魅力、わかり易さ。観光ルートの安全性、休憩所やトイレの整備・清掃状況、棚田の保全状況に関する意見)</p>	<p>①本事業では高山コミュニティセンターにおいて、地区住民の主導による活性化を目指すべく、「高山コミュニティセンター運営検討委員会」により地域全体の資源活用の検討、企画を行ってきました。</p> <p>しかし、本地区が観光レクリエーションの拠点として活性化するためには、今後とも様々な方策が必要になってくると思われます。ご指摘の通り、観光客の目線で評価をいただき、明確な目標値を設定することも、観光事業の促進状況の管理にも大切であると思われます。又、棚田の保全についても、観光促進の一手段として行うことで、相乗効果を生む可能性があります。</p> <p>戸知山は本地区に近接し、本地区を拠点とし</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・評価と目標設定を行う (5段階評価とし、総合評点を「良い」または「非常に良い」が70%以上とする管理目標を設定) ・観光客の立場では、そこに度々訪れたいと思っていただくことが必要であり、魅力あるものとするためには観光客の目線が必要 ・耕作放棄地が目立つ棚田の整備とともに戸地山も観光・トレッキングルート等に加えた、自然歩道等の整備も重要 	<p>た観光ルートとしての可能性をもっており、今後のまちづくり方策として一体的に検討を行うことも考えられます。</p> <p>ご指摘いただいた観光事業に係る事業に関しては、今後、新たな施策としての展開を検討していきます。</p>
--	---	--

<p>パブリックコメントの実施について</p>	<p>①都市再生整備計画のパブリックコメントが実施されていない</p> <ul style="list-style-type: none">・整備計画策定時に住民の意見を聴取せず、今後のまちづくりについて何の参考にもならないような目標値を設定したことは大きな疑問 <p>②評価原案の閲覧場所について</p> <ul style="list-style-type: none">・本庁舎内情報コーナーでの閲覧が広報されていない・住民の大半が居住している西地区で閲覧が出来ない	<p>①本都市再生整備計画は、高山地区の活性化に地元から取り組めるよう、高山自治会を主とした地域の方々に意見をいただき、国や大阪府と調整を行いながら策定を行いました。ご指摘の通り、事業計画の際に広くご意見を伺うことで、高山地区の方々へのヒントにもなったと考えられます。今後事業計画を行う際には、町民全体で検討が行えるよう、パブリックコメントを最大限活用いたします。</p> <p>②評価原案の閲覧は本庁舎情報公開コーナーも併せて行うべきところ、広報では誤って企画政策課のみとしておりました。申し訳ございません。パブリックコメントに際しては、ホームページをご利用いただけない方にも広く閲覧していただき、より多くのご意見をいただけるよう、吉川支所や図書館等閲覧場所とするようにいたします。</p>
-------------------------	---	--